

## 令和5年度第1回糸魚川市地域公共交通協議会

### 【日時及び会場】

令和5年5月30日（火）13:30～15:15

糸魚川市民会館 3階会議室

### 【出席委員】

井川賢一会長、吉田学委員、白石雅孝委員、塚田二郎委員、猪又直登委員、渡辺郁子委員、小谷野黎・坂藤未知祐委員代理、丸山延弥委員、山田明男委員代理、鹿野剛史委員、荻原一浩委員代理、折橋一禎委員、清水孝人委員、池上和弥委員、大貫清志委員、恩田浩幸委員、伊藤こずえ委員、吉田和則委員、渡邊闌壽委員、斉木房子委員、原豊子委員代理、玉巻史成委員、長沼潔委員、山本宏樹委員、野本宏一委員、渡辺一彦委員 以上 26 人

### 【事務局】

大嶋利幸産業部長、五十嵐博文事務局長（都市政策課長）、内山俊洋事務局次長（都市政策課課長補佐）、渡辺直志交通政策係長、仲川智明主査、菊池祐希主事、岡野聡主査（福祉事務所）

### 【会議の概要】

#### 1 開会

- ・都市政策課課長補佐の進行で13:30開会

#### 2 会長挨拶

- ・会長（糸魚川市副市長）による挨拶

#### <会議成立報告>

- ・委員出席状況は、総数28人中26人が出席となり、協議会規約第9条第2項に規定する過半数に達していることから、本会議の成立要件を満たしている旨を報告。

#### 3 報告

- ・議事進行は都市政策課課長補佐

### 糸魚川市地域公共交通協議会 委員の交代

委員：この機会に伺いたいのだが、糸魚川駅の新幹線改札口が無人となったため、遠くまでの切符が買いにくくなったと伺ったが、いかがか。

委員（鉄道事業者）：新幹線糸魚川駅窓口での「みどりの窓口」の営業を取りやめ、「みどりの券売機プラス」に置き換えた。券売機にはビデオ通話機能があり、オペレーターとお話

しながら切符を購入することができる。糸魚川駅については、改札には係員が常駐しているのでお困りの際にはお声がけいただければサポートできる。

#### 4 議事

・議事進行は会長（糸魚川市副市長）

**議案第1号 令和4年 事業報告**

**議案第2号 令和4年度一般会計決算**

（決議）原案のとおり承認

**議案第3号 令和5年度事業計画**

**議案第4号 令和5年度一般会計予算**

（決議）原案のとおり承認

**議案第5号 糸魚川バスが運行する路線における協議運賃の設定**

（決議）原案のとおり承認

#### 5 その他

・議事進行は都市政策課課長補佐

○西海地区グリーンスローモビリティ実証運行 結果概要

委員：車両価格はどのくらいか。また、電力で走ることに對しての総評はいかがか。

事務局：車両価格は、西海地区を運行した乗車定員10人程度のバスタイプでおよそ1,500万円。4人乗りのゴルフカートタイプではおよそ200万円。

電動ということで坂道での馬力を心配したが、登りきることはできた。一方で電力は大きく消費した。

○まいにちタクシー（一括定額運賃タクシー実証実験） 実験結果概要

委員：実証実験全体として、運転手の感触はいかがだったか。

委員（タクシー事業者）：ルール範囲内で1人の方の利用頻度が非常に多かったことで、その方にタクシー1台占有される状態となりドライバーが大変だった。ほとんどの方が想定範囲内での利用であったので平準化できればいいものになると思う。

時間帯ではやはり午前中が多く、通常のタクシー利用の方も多い時間帯であるため、きつい部分もあった。

委員（コミバス事業者）：今回の実証実験での車両の使い方は良い考え方だと思う。朝晩は業務があるが、日中は運行がなく車両が空く。まだまだ課題があるようだが、ぜひ長い目で完成形を目指していただきたい。

事務局：実施実験エリアは糸魚川市の市街地エリアで、路線バスの利便性も比較的良いエリアであったが、タクシー事業者の都合を考慮し今回の設定となった。ご高齢の方、お身体の不自由な方などへ移動手段を提供できる術はないかとの思いもある。提案等あれば参考にしたいのでお声がけいただきたい。

○公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律について  
質問・意見なし。

○6月広報いといがわでの特集記事について  
質問・意見なし。

○交通事業者の近況報告

委員（バス事業者）：運転手のなり手がいない。このままいくと運転手がいないことを理由にバス運行に支障をきたす時が来るかもしれないと心配している。広報いといがわ6月号にてバス運転手募集の広告を掲載する。

委員（バス事業者）：運転手不足に伴い昨年11月末から上越市内の2路線を運休していた。運転手の補充ができたことから6月1日から運転を再開する。  
令和4年度はコロナ前と比べて90%台まで戻ってきた。ただし、非常に地域差があり、市中心部は戻りつつあるが中山間地はまだ減少率が高い。  
高速バスで「クレジットカードによるタッチ決済」の実証実験を行う。VISAとJCBのカードが対応。6月1日から実施。

委員（コミバス事業者）：コミバス等を始めて十数年経つ。その当時は公共交通を残そうということで地域の方から結構な乗車をいただいた。ここ数年はかなり乗車人数が少ない。新たな利用者として期待している世代は、免許を持っていた世代であり80や90、95歳でも免許を所持し運転をしている。そうなると免許を返納し、路線バスやコミバスに乗って1人でお出かけできる時期はわずか。そう考えると以前に比べ公共交通を必要とし、使うことができる時期は短くなってしまっている。  
利用が少ないからと言って、足が失われてしまうと生きるか死ぬかに関わってくるので、最後の交通手段としてできるだけがんばっていきたく思っている。

以前と違い公共交通を必要とする人、需要が生まれてこない、さらに期間が短いとなってくると事業として成立しづらくなってきている。そうなる「まいにちタクシー」のように車両や運転手をうまく利用する仕組みが必要になる。そういった公共交通を残すための新たなアイデアやヒントを皆さんとの意見交換の中で探っていきたいと考えている。

委員（タクシー事業者）：コロナ前と比べると75%くらい戻ってきている。数年前より1台減車、また1日あたりの稼働台数も減っている。夜間の運行も少し戻ってきたが、こちらは人材不足で十分な車を回せていない状況。

DXなどで配車効率を上げたり、稼働効率の平準化により安定運用できるよう取り組んでいきたい。

委員（鉄道事業者）：JR西日本においては、鉄道収入では、コロナで収益が一時半減したが現在はだいぶ持ち直してきている。それでも厳しい状況は変わっていない。コスト構造の改革を進め、2022年度は何とか黒字決算にすることができた。

大糸線については、コロナ前に戻りつつあるが鉄道の特性を發揮できる状況まで戻らない中であることから、地域のみならずと本当に持続可能な地域社会にとって一番いいものを一緒に模索させていただきたいと投げかけさせていただいている。活性化については、雪月花の乗入れやサイクルトレインなど糸魚川市を中心に取り組んでいただき大変感謝している。

委員代理（鉄道事業者）：えちごトキめき鉄道においては、令和4年度は対前年比で116%程度。コロナ前と比較して98%程度とコロナ前まで戻りつつある。

「直江津D-51 レールパーク」が開園した。上越市にある水族館「うみがたり」の5周年イベントとの連携を6月24日予定。新しく「建築限界測定車」「ラッセル車」を4月から展示。

委員代理（バス事業者）：あさひまちバスにおいては、朝日町内の唯一の県立高校がなくなり、あさひまちバスは利用者が激減した。令和3年度から「ノッカルあさひまち」というマイカー乗合の公共交通を本格実装している。バスとノッカルとタクシーがあることで住民の方に選択肢を提示できている。一つのモードにこだわらず、全体最適の視点で今後も考えていきたい。

## 6 閉会

- ・都市政策課課長補佐の挨拶で15:15 閉会

■協議会の様子

